

『子どもを前向きにするプラス言葉』

佐藤 広樹

教え方のルール10カ条

- ① 熱意よりも何をどうすればいいのか具体的な指示をする。
- ② 「教えた」かどうかは「学んだかどうか」で考える。
- ③ 結果が思わしくないのは、全て教える側の責任である。
- ④ 上手に教えたいならコミュニケーション上手になる。
- ⑤ 教えるときは相手をよく観察して相手の状況をつかむ。
- ⑥ 相手にとってちょうどいい知識を与える。
- ⑦ 相手に教えたことを練習させて結果をフィードバックする。
- ⑧ 相手にできるようになってほしい具体的なゴールを決める。
- ⑨ 相手の「心」は変えられないが、「行動」変えられる。
- ⑩ ゴールは必ず「行動」として設定する。

※そもそもゴールとは...

- ・運動スキル→「それくらい、なんでできないの？」は禁句。
- ・認知スキル→「うまくやるためのコツ」を教える。
- ・態度スキル→相手の心にタッチするスキルが必要。

<演習>

例. 課題に取り組まない子どもに対してかける言葉は？

---

例. 「勉強してほしい」という思いを伝えるためには？

---

態度スキルについて

- ・それをすることがなぜ必要か、どんないいことがあるのかを相手に気付かせる。
- ・お説教ではなく、質問をしてやってほしいことに目を向けさせる。
- ・相手の強みをたくさん言ってあげる。→モチベーションアップ！！
- ・コーチングスキルを会話に取り入れる。特に、『GROWモデル』を使って、「ゴール設定」→「現実チェック」→「ゴールに近づくための選択肢を出したり行動や方法の決定」→「意志確認」の順番で質問していく。

参考文献：いちばんやさしい教える技術／向後千春著